

ウェルウォーク通信

～マッターホルンリハビリテーション病院様のTR-TIPSの活用紹介～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

今回は、マッターホルンリハビリテーション病院様の取り組みについてご紹介致します。



マッターホルンリハビリテーション病院（広島県呉市）

当法人のコンセプト
Life is motion.

【施設の特徴】

- 回復期～生活期までの地域に根ざした包括的ケア
- 先端機器が充実（歩行支援ロボットを**4種類**導入）
- 積極的な学術研究活動

【基本情報】

病床数 回復期37床 介護・療養57床
 疾患割合 整形外科 5割：脳血管疾患 5割
 療法士 65名（PT42,OT12,ST11）
 うち ロボリハG PT3名+外部支援講師1名



外部支援講師・共同研究者




平岡先生 平戸先生 中村先生



鈴木先生
九州栄養福祉大学

➤ 当院におけるロボットリハビリテーションの主な介入の流れ

患者リクルート




- 歩行自立度(Functional Ambulation Categories)
- 歩行能力(10 m歩行テスト、6分間歩行テスト)
- Stroke Impairment Assessment Set
- Fugl-Meyer Assessment 下肢運動項目
- マーカレスモーションキャプチャーシステムによる歩行分析

脳卒中患者

➔

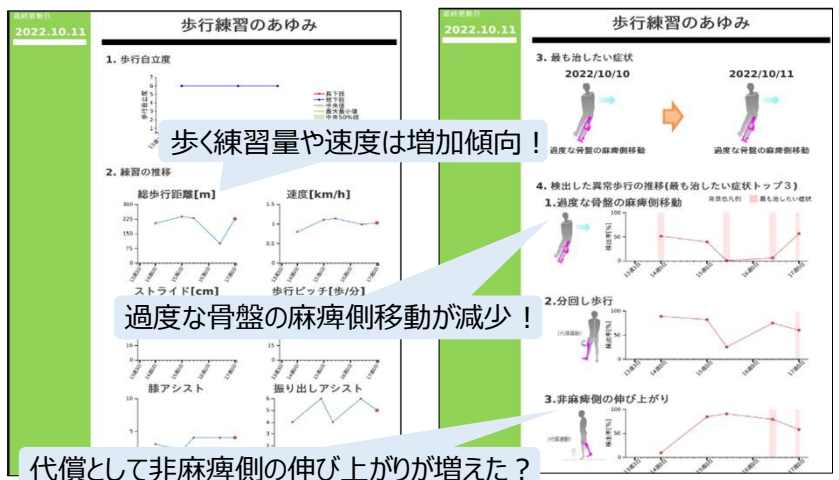
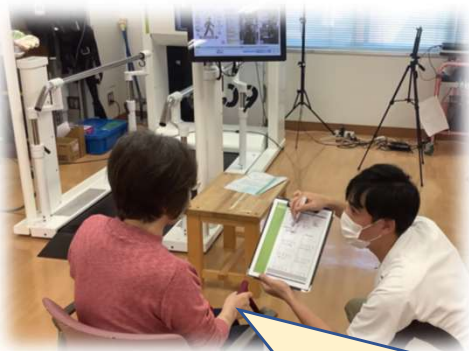
ロボットの選定



機能・能力障害、退院先、問題点などの情報をもとに担当PTとディスカッションし、使用ロボットの選定を行う

➤ データの活用およびフィードバック

4週ごとに**TR-TIPS（歩行練習のあゆみ）**を使って利用者様へフィードバックをしています。
歩行練習のゴール（自立度/速度/持久性）の達成度や今後の方針を共有するために活用しています。



ロボットを使った練習をすると歩く自信もついて、治っていく過程が見えてうれしかった！

当院では、ロボリハの対象を回復期のみならず外来患者やデイケア利用者など、生活期にも広げています。私たちは、常に「学術的な視点」と「臨床的な視点」をもつことを意識しています。さまざまな歩行支援ロボットがある環境を生かして、対象に応じてロボリハが必要な時に必要な患者に提供できるよう、データの蓄積・学術的視点での検討を行い、効果的にロボリハが提供できるシステムづくりを目指しています。

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口<clinical-ww@mail.toyota.co.jp>